

のだネット通信



中核地域生活支援センター のだネット (千葉県委託事業・野田健康福祉圏域)

TEL 04-7127-5366 / FAX 04-7127-5367

〒270-0235 野田市尾崎840-32 / E-mail noda-net.kusunoki@nifty.com

<http://homepage2.nifty.com/noda-net/>

中核地域生活支援センター大会2013

「地域社会の貧困化・～生活困窮に対する支援の課題とこれから～」

7月20日、千葉市勤労市民プラザで開催された大会には一般市民の方を始め行政・社協・県議員・報道関係者等430名の参加を得ました。予定以上の参加で座席不足・会場からの質問を集めづらかった等のご意見をいただき、今後の大会運営の課題にいたしました。

基調講演は厚生労働省事務次官の村木厚子氏による「生活困窮者支援法の概要」でした。「生活保護に至る前の段階で自立支援の強化を図るため、生活困窮者に対し、自立相談事業の実施、住宅確保給付金の支給その他の支援を行うための所要の措置を講ずる」ことを目的とした法律です。支援法が出来ることへの期待は参加者へのアンケートの回答からも伺えます。

《アンケートより》

- 高齢者の支援をしている中で一番困る相談はお金。家族全体が困窮しており、生活保護になる方は良いが繋がらないケースがある。このような問題が解決できる制度となって欲しい。
- 生活困窮者を次々と生み出している現在の社会において、国としての法制度化が各自治体の施策のバックアップになると思う。生活保護制度の改悪が気がかりではある。
- 人が人として生きていくためには、収入を得て安定した生活が出来るということだと思う。非正規雇用ではなく、正規雇用で働けるシステムが大切である。
- 人口の減少、特に生産人口の減少、社会を見据えた時、今後の経済成長は見込めない。どのような生活を我々は作っていかなければならないかを考えるときに、村木さんが言っていた「共生社会」は大切なキーワードとなるのではないかと思う。
- 生活困窮者制度ができた時、中核がどういった機能をして行くのか?市町村と連携できる場所があり、共に学び、協力し、刺激し合いながら「福祉」に携わる人として何が出来るのか、中核センターと一緒に考えていきたいと思う。いいコラボレーションが出来れば良いと思う。

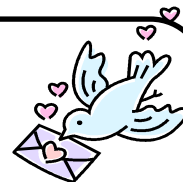
《中核地域生活支援センターより》

「今回の大会は特に良かった。何となく元気が出て、学ぶことが沢山あり、充実した大会だった。」というご意見もありました。今大会は、結論を出すものではありませんでしたが、今後、ご意見を中核センターで反映して行かなければいけない。「生活困窮」をテーマに、引き続き考えて行かなければいけないと考えています。

(記:金城)



コーディネーター便り

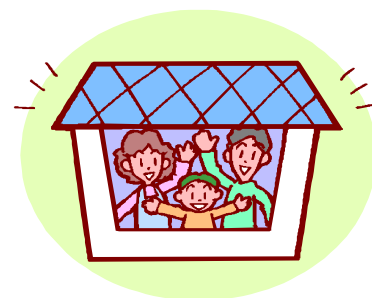


平成25年9月20日(金)、千葉県児童家庭課虐待防止対策室主催の「初動からの家族関係支援」のアドバイザー養成研修に参加しました。テーマ「どうしたら家族と子どもの安全について話ができる?」を、保護者との面接場面を取り上げての研修でした。

中央児童相談所・主席児童福祉士兼調査課長の渡邊 直氏を講師に「当事者達と対立することになったとしても、早期に子どものこれからの安全について話し合える関係を構築する家族支援の理論と方法。」を学びました。児童虐待に対応するとき、児童相談所が子どもの権利擁護のために職権を行使して介入しなければならない場合がある。そのような中においても「事実確認と安全性の査定」の初期調査の段階から問題をずらさずに当事者対話(相談支援)をしていくことで「子どもに起きた福祉阻害の特定と再発防止」が重要。

「家族関係支援は初動から介入と支援が始まる。」、「私たちの専門性は「こうしてください」と腹案(誓約させる内容項目の精査や優先順位)を考えることではなく、当事者が危害を繰り返さない安全の仕組みを自ら考えられるよう質問していく専門性である。」と。

のだネットはこれからも関係機関と連携し協力して対応していきます。



(記:金城)

いちいの木研修会 報告

平成25年8月26日(月)、関宿コミュニティ会館第3集会室にて、いちいの木「夏の研修会」へ参加してきました。

午前中は千葉県立野田特別支援学校の吉田利恵教諭より「聴覚認知について」講義がありました。「聞こえ」のしくみから、療育や補聴器のこと、コミュニケーションの問題など丁寧にお話ししてくださいました。普段意識して声を出していませんが、息の出し方と舌の形を駆使して発声しているのだと実感しました。また難聴児の支援には環境への配慮が欠かせないことも知りました。静かな環境でわかり易い指示が集中力を高めるために必要とのこと。

(記:五十嵐)

午後からは千葉県立盲学校の森 栄子教諭と杉山 利恵子教諭より「視覚認知について」体験を交えながら、講義を受けました。

眼球運動は、認知そのものではないが、見たいものに眼を向け、見たいものを追いかける眼の動きは、視覚を支える最も基本的な機能だそうです。

情報を理解して、何かを見出す力、それがないして身体を正しく反応させる力は「眼と脳とからだ」の三者が連携して、はじめて得られるとのこと。眼の運動機能を高めていくための取り組みと身体の認識力を高めていくための粗大運動が必要とのこと。

1分間数字探し、ひも通し、紙くしゃ、スーパーボールキャッチ、線上歩行など目と手と体を使ったトレーニングを先生方の手作りの教材で楽しく体験させてもらいました。

毎日少しずつのトレーニングが子供たちの視覚活用が改善されていくと考えられるそうです。

(記:竹 繁)



趣味の部屋

入院中に絵を描きためていらつやる方をお願いして広報誌用に書いて頂きました。

世界観が素晴らしいと感動いたしました。

是非個展を開いて欲しい!!!



【お問い合わせ先】
 中核地域生活支援センター
 のだネット
 担当:五十嵐
 TEL04-7127-5366
 FAX04-7127-5367

(記:五十嵐)

ひとりごはんが楽しくなる会

1人暮らし、又は1人暮らしをめざしている精神障がいの方を対象にした調理実習です。いつも写真を撮ろうと思っていたのですが、作る事に夢中になっていました...。しかし、今回は撮ってきました!!!

7月14日の冷やし中華、8月4日のお好み焼きです。9月1日はさんま缶チャーハン。この日は防災の日。保存している缶を交換するときを作って見てください!ネギと玉ねぎとさんま缶のみで、味付けもさんま缶の汁(全部は入れないように)です。

10月6日は産業まつりと重り、「一人でお祭りに行ってもなあ」と言う方の為に特別企画「産業まつりを楽しむ会」を開催します!12時に中央公民館の入り口集合です。



カメラ目線でも手は動いてました!

記:五十嵐